

## 2013 NEW PRODUCTS

## Kailas SS200

スピーカーシステム

●定価: ¥190,000 (税別)



・エンクロージャー (日本製 Oak Village 社製) スピーカーユニットをじかに取り付けるフロントバッフルには樺桜の無垢材を、またその他の部位は音響特性と耐久性に優れた高密度パーティクルボード材を採用。ここにも1.5mm厚の樺桜の突き板を用い、これを日本の誇る飛騨の木匠が丁寧に仕上げました。・スピーカー入力端子 (Ortofon Japan Co.,Ltd 設計) スピーカー入力端子はYラグ、バナナプラグに対応し、芯線の太いスピーカーケーブル (φ5mm) の使用も可能。さらにエンクロージャーの音響性を保つ為に端子をエンクロージャー直付けとしております。・ウーファーユニット (Norway SEAS 社製) Kailas SS200のウーファー・フレームには最良の技術を行使しています。●アルミよりはるかに剛性の高い亜鉛フレームを採用し共振を完全に防止しています。●フレームには大きな窓を採用しコーンの振動時に起きる乱気流ノイズを低減しています。●コーンが歪みなく滑らかに振幅にする為にボイスコイルの振幅を20mmに伸ばしています。●ボイスコイルには軽量かつ大電流に対して強靱な CCAW(銅クラッドアルミ線) 材を採用●コーン振動時にコーンのキャップ下の空気ボイスコイル内で圧縮されない様に逃磁気回路のセンターポールに空気抜けのトンネル構造を採用しています。

最善の設計をしたスピーカーは聴感上でも、音抜けの良い、透明感に優れたハイファイサウンドを実現しております。・トゥイーターユニット (Norway SEAS 社製) ドームのダイアフラムは二重構造で内芯部と外周部で構成され、そのバランスの良さでワイドな周波数特性をもち、エネルギーで透明度に優れています。また、ユニットのフロントパネル部分にはガラス繊維を編みこんだ強化ポリマー樹脂を用いております。・ネットワーク (Ortofon Japan Co.,Ltd 日本製) Kailas SS200のネットワークは、最初に理論上最適な値を設定し、そこから無響室での徹底的な測定テストや、音楽ソースのヒヤリングを行いながらつくり上げられてゆきました。またオーディオグレードの高精度フィルムコンデンサや無誘導巻抵抗、2mm径の芯線で巻かれた大型空芯コイルの採用やネットワーク自体に施された振動対策により、スピーカーユニットの良好な特性を最大限引き出すことを可能としております。・吸音材 (日本製) オルトフォンは吸音材についても様々な実験を行い、最適な量のグラスウールを絶妙に配置することで、適度にエンクロージャーをダンブしつつ、ユニットの特性を生かすことに成功しました。Kailas SS200 仕様・ウーファー: 15cm cone type 亜鉛ダイキャストフレーム・ツイーター: 25mm Double soft dome・周波数特性: 45Hz-25,000Hz・許容入力: 60W: 200W (MAX)・音圧: 85dB・インピーダンス: 8Ω・クロスオーバー: 7,000Hz・キャビネット・仕上げ: 樺桜&樺桜突き板仕上げ・外形寸法: (本体のみ) 170W×275D×280 H (mm): (サラネット、スピーカー入力端子込み) 170W×306D×280H(mm)・本体重量: 5.3Kg (1本)

## NEW MC Q Series



MC Q5 ¥ 29,000(税別)



MC Q10 ¥ 47,000(税別)



MC Q20 ¥ 69,000(税別)



MC Q30 ¥ 93,000(税別)



MC QMONO ¥ 47,000(税別)

1958年のステレオレコード発売から半世紀以上の時が経ちました。オルトフォンはこの前年には既にステレオ用のレコード盤カッティングヘッドを開発、この2年後の1959年にはステレオ・ピックアップという3単語からの頭文字をそれぞれ冠した、MCカートリッジの金字塔たる『SPU』を世に送り出します。さらに1970年代後半になってから発表されたMC-20は、軽質量・ワイドレンジを目指して開発されてきた製品群の集大成とも呼べる存在として一世を風靡しました。後にMC-10、MC-30の姉妹機も加わり、また幾多の代を重ねつつも現在に至るまでオルトフォンを代表するモデルとしてSPUとともに皆様に愛され続けております。このMC-30・20・10シリーズが、『5』と『MONO』という2モデルをラインナップに加えて8年ぶりに装いも新たに生まれ変わります。チーフエンジニアであるDr. ライフ・ヨハンセンを筆頭とするオルトフォンの開発陣が総力を上げ、さらにフラッグシップモデルのMC AnnaやMC Xpression、また本シリーズの上位モデルとなるMC Cadenzaシリーズで既に実装されて培われてきた新世代の技術を惜しみなく投入したことで、コストパフォーマンスに優れながらも上級機に引けを取らない内容を備えた高性能な現代的モデルに仕上がりました。アナログカートリッジは着実に進化しています。そう感じていただけるだけの性能を十分に備えた次世代型MCカートリッジの誕生です。MC Qシリーズの特徴・発電エンジン/発電系は既に定評と信頼性のある歴代MCシリーズのものを踏襲しつつ、各モデルのコイル線材には上位モデルで実績のあるオーキウムや銀線、また音色の素直さから高純度銅線を採用。同シリーズ内でも様々なマテリアルの音色をお楽しみいただけます。カンチレバー・スタイラスチップ/MC QシリーズのうちMC Q30では、これまでフラッグシップクラスにのみ使用されていた、音響素材として極めて理想的なボロンカンチレバーを採用いたしました。この高性能カンチレバーと、レコード盤から圧倒的な情報量を引き出すシバタ針との相性は抜群です。他モデルではオーソドックスなアルミカンチレバーと各種の楕円針を使用しており、これらは音楽をお楽しみ頂く上で必要不可欠なエネルギー感やハーモニーを十分に拾い上げてくれることでしょう。・ハウジング/MC Qシリーズでは、ハウジングに音響特性に優れたABS樹脂を採用しております。また前シリーズに比べ自重が1.5g軽量化されたため、より多くのトーンアームに対応可能となりました。

オルトフォンジャパン株式会社

〒113-0034 東京都文京区湯島2-2-6-6 F TEL03-3818-5243

Ortofon A/S Stavangervej 9. 4900 Nakskov, Denmark